

利益の伴う経営を

広がる安値受注に苦言

フローリング協会例会

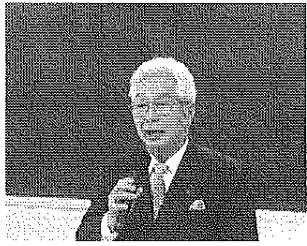
フローリング協会（小黒邦雄会長）の3
月度例会が1日、東京都内で開催された。

開会のあいさつで小黒会長は業界で広がる安値受注に触れ、「安値受注に長く続くわけがない。人間は欲のある生き物なので、満腹でも、負けたくない」と仕事をとってしまおう。こういうことに

「職人不足に苦勞したが落ち着いてきた。だが、仕上げのフロー

いち早く気付いて、少しでも単価を上げていくべきだ。材料当たり100円高く売れたらどれだけ業界は潤うか。経営は利益が大切なこと」と話した。

来期の役員改選の経過報告では、役員を選



あいさつする小黒会長

リングとPB不足と値上げが課題。材料高、職人の問題などがあるが物件に恵まれたこの2、3年の間にどれだけの蓄えができるかがカギとなりそうだ。部会でも情報交換を主体に集まりを図っていきたい」（施工部会）。

「急激な円安の影響から資材に影響が出て

いるほか、施工時に下地として用いる針葉樹合板の調達に難航している。円安に伴う値上げの動きはこれからの

が、まず運賃の上昇が先行している。原料だけでなく、接着剤、塗料分値上げを考えてい

かないといけない」（床製造無垢部会）。

「シートフロアの納期が遅れ気味なので工期が確定し次第、早めの発注をお願いしたい。また、円安の影響からも今後、値上げの要請をすることになるので、理解してもらいたい。部会では、仮発注、本発注の定義を作りたいと考えている」（床製造複合部会）。

「1月は過去にないほどベースパネルとなるパーティクルボード

（PB）の供給不足となった。すべての二重床メーカーが影響を受け、施工店にも迷惑を

かけてしまった。2月に入って需要は落ち着いてきたが、PBメーカーの生産は上がっていないようだ。今後もしばらくこの状況が続くので、納品確定の早めの連絡をお願いしたい」（置床、鋼製床部会）。

「資材流通は仮需もあり活発だが、現場は遅れている。PB不足の状況はむしろ悪化して、4月以降に落ち着いてくれればというところ。合板を含め

多くの資材のコストが円安をきっかけに上がってきており、仕上げの複合フロアの生産コ

ストも高くなってきている。職人手間も考慮すると今後は請負価格の転嫁も必要になってくる」（建販商社部会）。